

よりて各治小いむ日せ掘び一と之一枚摺せ賣歩仍○六月御優萩野八重
桐船に系中河ふ起碎身の餘り蠅せさるんとて川下りま歩之入弱死を
平賀鳩溪根よりまとりつる紙せつとせさる紙のぶ○八月廣東人參
高賣を止めぬ○九月朔日日蝕の事曆面不脱せりといふ○九月神田明神
祭礼昨年より延ひ當月執仍○十月神田佐久間所幸午月岡田治助
朝鮮人參座の令せらる○十二月十九日書家篠田仍休卒
名真貞屋金溪
跡人小日向全則
善善 ○古今相撲大全梓仍 木村政務 著 ○志道新傳梓仍 風来山人 撰

此年間記事

日暮里芝森稲荷 上野社 の外 新ふ不動精尺 ○増上寺塔頭公光院赤羽根
川堀一移る ○目黒幡籠古境内窟出来る ○宝曆中淺沼山の上人本
叔小よりて江戸並近生合々弘法大師八十八箇取系始る 大進松林 撰 ○松森

猶前系宝曆九年迄隔年童子の町より花中練物神樂を渡りながら其後
中絶也 ○小野照海明林系隔年梓仍出練物せりる宝曆七年より
中絶也 ○宝曆末より又口新田社より系消多一社地又又を賣始諸人求て者
と也 ○根岸田光る意中練物盛の次貴族遊観多一 ○婦女管絃
繁り書紙紙にて張る日傘仍る ○夏合羽夏火事羽織羽々始る ○土佐
節澤福瑞廢れ江戸節河赤松大坂の義士又并京の園八節二節節赤赤の
澤より仍る ○卜者平沢左内ね孝若神登軍書講釋師深井志通仍
空傳次 著 滋野瑞竜仍成田壽仙仍る 壽仙仍 著 ○北頃大盛松六七十艘仍りし
よ一壺塚終よいり ○旦那のねつ高菜と唱て市中一葉を賣る者あり ○
原世繪師終末系信石川豊信 秀範と号志掛園飯盛の次中一七
る繪下の旅店ぬる七を繪といり 香居清倍山本茂信
終卒 鬼玉其外多一 ○好事の輩古跡を集る事仍る

○は時代世上の風俗をのびる仮名本流れ教の棒切しけるを撰て評判記を
 作り千石篩と歌は中内蜀山人の水権論を別て賞せり○芝紀速武玉川と
 りの俳虫十六篇をていつり人の交柄とて川柳が拵も是より出り少く云
 ○山本静観坊といふ若下は徳義といふ名紙をあつりて世に流る載るところ
 戯文あれども教戒の意を用ひ人の著書十三部程あり
著述目錄あり下は後集の
 回向院おまけに下は後集の
 仍れ六作人の世をこれとて返答下の後集
下は後集離世集は後集あつりて名紙も出り ○芝三回俗稱 賦歌やうといふ著書は
とあるすべし ○家衣小東尾巻云は既の巻を上りてたの方小嵩河川端より
 上れそれ家の前より男女の石像あり是は宝曆の以飛戸小砂屋よりて其家の
 文婦の石像といふ後年春落しと流るる子孫もあつりしや取らるる
 次は後集の落し晒れと文化の半座を云はて賽跡台をゆりしり文婦石
 と号して何る流り立形する人多くと云く ○宝曆三年の流より大文字屋の

大うがわちわといふ童謡は
吉原町大文字屋を傳ふるものなり
しるしは人かおわと書やはる者自らかきしりて人を笑はせりといふ
蜀山人仮名世説
又云
 ○寄合茶屋落葉は東海道深川西宮宮次りり ○標芝居盛ふは
西和七年お能まる文に
波の上より標よりけり
 たり宝曆の始豊竹肥前権後りりうと東次が芝居ふありて尚藝昌しりり
 福内鬼外孫平賀 降福禱ありて作り出せり何れも佳化
殊に藝
買せり ○宝曆中西村重長が繪本江戸みやげ國中あ國涼の景は水景
 在落葉の落極き一見世無はは焼を並て川原河と記せり吉原より十軒編
 笠茶屋小編を並りて作り出せり女子帽子をくむる浅草甘納菓茶屋の
 何んとう ○花屋あざりり ○婦女の衣類下茶葉の色を好み花巻を
 やる末塗の櫛旭の櫛とていふ象牙の弁うがいもはきりり ○硝子の外國のものはあるを
らんらん
そのあやう
 蘭人持後り中古茶碗をく製するを傳来大坂小徳しを近以東都に
 其職人多く出来て其の器を製し活業と流る者ありしりり成徳庵云く

ビイドロを紫液より汲ホルトカル辞ありと○横山町より同族を誘
 とりの工事して田舎に用ゐる船の齒を造りてありしを鉄より作り
 作る心○圖書集成一万巻康熙帝の自撰之書曆十一年船来して
 官庫へおさめらるる事安齊博學より何事か改元以前ありたり

明和元年甲申

六月十三日改元 十二月間

二月十六日朝鮮人來

正使鄭尚厚副使李仁培
 後奉陪樂仁奉茶致意旅宿

三月六日上野より曲馬あり諸

人をもつす○二月より月白不動寺開帳○深川降ふより鎌倉宿谷先

則經寺祖師開帳○深川永代寺より系栗田に青蓮院宮に持參不動寺

三條小波池に槌指あり神親書上人殊發像開帳○青切町茶師内より

奥州安達系人肌茶師如來開帳○日向院より武州檜村郡山に親世吉開

帳○月尾不動寺内より相及大山藤子安地菰寺開帳○二回春日明神

開帳○日向院より伊勢山田入門寺延院如來 右利支丹延法 幡隨院齋持 開帳○淡草報恩

寺より奥州南社本誓寺親書上人室物を拜せむ○二月廿日夕七時

神田新張町より山火水風烈しく蟻燭町多町堅大之町新石町鶴町能治

町西側皆川町永富町松下町鎌倉町三河町多町日本新張町より日本新張本

町多町目石橋追焼日夜八時能治橋内一飛火月新門院明六時續る

韓人逗留のちありとありと ○二月中旬平賀鶴溪 源内 火院布を乞ふ創製

火院布隔火紙之銘

火院之布自古有名彼安達説臆度量木皮斯謂鼠毛南荒
 或果誣理謂傳者安津濱造物寧可推竊陽中有陰陰中有陽
 入火不化柔能制剛昔彼西戎今我東方織成素練過以銀
 鑲一片隔火百姓觀查書堂清供縹房風情
 明和甲申秋八月 大日本讀岐 德溪平賀國倫創製

○二月廿九日塚所焚付油の店音刑より火火とて高野の芝居敷焼く大風ふ
 して焼度ぐり囚獄の辺にさるる○三月十二日下谷溝に家より火火車坂下まで
 焼亡せり○四月朔日より日忌不動寺まで下野園岩山塊蔵寺開帳
 ○同日より祐天寺鉢陀妙法天徳正徳開帳○同日より澄谷金五八幡
 宮開帳○大久保法若寺七面明神開帳○四月朔日より回向院まで大和
 最原最光寺天満宮奉仕十一面觀世音開帳○高田院八幡奉地佛開
 帳○谷中宗林寺舟吉三郎鬼子母神祖師天満宮開帳○幡谷谷蔵
 寺不動尊開帳○芝野宮社地まて武州多摩郡國分寺薬師日光月
 光并開帳○七月六日法如小日向小石川本所の辺分て水常塔まで
 ○靈藏高理之地成り俗より薬師高といふ○七月朔日より回向院より
 川崎真福寺薬師如来開帳○同日より回向院まで神奈川觀福寺浦島

大社守佛親世鎌倉美室よ開帳○同日より清草寺内松高院史六年天
 腹毫草寺開帳八月日○同日より清草寺境内より紀及加太漆島明神奉地
 虚空藏菩薩開帳○護國寺より駿河富士山宗人より東迎三尊佛開帳
 ○清草権寺より上谷甘樂郡白井深堂寺薬師如来圓光大師開帳
 ○龜戸龍眼寺池邊小教林の萩と裁り是より毎年盛の以寺裁
 遊覧の地と成る事阿墨斎師の説ふは時代と當との辺に盜賊徘徊して其縁の人の意裁
 を難免と有別とと要をけりせよと其意裁を裁て裁ると母一め一と
 ありありや○十一月六日做人柳新斎茶瓶率五十才弱に性不其の意裁を裁り
 一日五才勺身初せりより五才と号

明和四年丁亥 九月日

正月元日未八刻より申刻迄日蝕二分○四月朔日より永代寺にて江沢井生
 島每方天西玉礼所親世開帳○同日より深川海崎赤才天開帳○同日より
 回向院薬草赤才天開帳○四月より日忌不動寺と銘護権院金屋庵并天

開帳○四月より谷中奉光古祖師開帳○徳町種子宮室塔元二大師の英帳

○相忍江の高下の宮舟才又開帳江戸より英塔多○園東川の水邊あり

○四月九日約形町より山火渡草古風雷神門焼る二神像金穂山の額を

恙多○真光神明宮の地より近大納言家長卿所不持あり○菅神

の像せりく劫清あり○四月十二日儒師赤松太慶卒名弘○六月八日儒

師服部仲英卒名推南郭の○七月廿二日儒師大敷幾塘卒名良兵衛

七月廿四日林隆院叔樹師長沼四郎光清の園々卒今大田○八月三日画人

波辺湊水卒早大名從林云義康布居湯子小葦江○八月十五日田元八幡宮祭礼

産子町より出く殊物と出く神楽神樂坂の神歌不(後)まの(次)中絶を

○十一月晦日儒師赤松少齋卒名蕃邦太慶の兄也○秋祭切行る○十二月五夜振

のりねを小よぶ(次)金まゐる十二枚の通用と成る○十二月書家版田百川

卒名祝勝林保江郭 廣海の門人一ノノ後董其昌を学ぶ近世
西久保青菴も小葦 董帖を慕するもいふより多しなり

明和五年戊子

正月廿七日英一蝶が養子一舟卒徐云常名信持号東惠翁○二月廿日より

王子権現王子稲荷の神開帳○二月三都より浄土真宗の怪しき法儀

を仍ひ一りのせ刑せらる俗まおとる門徒と○三月千劫が谷聖徳寺如意海親

母音開帳○三月十六日より永代もろく系大原野春日明神開帳○三月

廿日より三田八幡宮開帳冥宝を合れしれのみと○回向院にて尾洲野間の内海大

河堂地蔵の開帳○三月大師河系村百姓太郎左衛門砂糖を製す弘む

七文も若多一紀島名水園舎ありの以より紀島府株の為漢雜交産町あり雜交産何某堂

法を修て居る在田郡小豆島村の田畑不甘藤を多くてこれを製す一ける今法を小製するの儀分

符を交する者ありといひ製法のも平賀徳漢の物製品隆ふりつこの時代も

砂糖不取新製の物とのをりつより一産糖はより今二般に和製のものなり○四月朔日

風よて廓跡ふ以八十軒送すを焼亡也 明慶丁酉の災後高野移りて後災多し
 社のつがひ一俵宅へ是木町今戸橋場 悉く今年廓中のこと
 山谷新を越へ出へて百日の高更せり 六月廿六日
 七龍祠和製を命せしれ三都ふ 六月九日
 養子町より出へて練物を出せり 六月十六日夜四時五十分雷雨
 ○九月十八日哥人村田実郷卒 三才東海の足寄
 深川寺教書小善

明和六年己丑

正月五日書家高顯齋卒 名玄融牛込町
 谷安五右衛門祖師閑帳 ○谷中本寺より下総野呂妙島寺祖師閑帳
 ○三月十五日より龍戸天満宮内にて越後守田春日明神奉地親也音
 英ふ不親音閑帳 ○三月より護國寺あり大和子島寺大峯洋仗役仍
 者閑帳 ○押上春慶寺善賢并閑帳 ○四月朔日永代寺四國琴彈山

の字阿弥陀如来天地不動尊本自坊より閑帳 ○月八日より湯島社地
 七和泉石津大社笑姿閑帳 式内の社と云社人石津連と云二方の巫女二人あり
 多し ○浅草園慶堂より足立郡下葉山十連寺楯魔王田光太郎閑帳
 画り

○四月七日より回向院あり川口善光寺阿弥陀如来閑帳 ○浅草寺境内
 より奥州二本松鏡石寺 安達系鬼神運流 親世寺閑帳 ○四月十八日より六月八
 日迄浅草寺親世寺閑帳 ○五月朔日より浅草権あり常陸鹿島廣徳
 寺麻島本地赤童子閑帳 ○同日より所花前十五堂よりね及町左村接
 雲寺三宝荒神家帳 ○七月廿一日哥人村田喜道卒 東海の又あり ○七月下旬
 より八月下旬迄瑞星現を長教文第の如し 瑞星といふ ○八月廿六日未刻
 より大風雷雨鳴あり人家を傷損を深川三十三乃堂倒る ○七月廿二日
 算術師長部綱系卒 孫左方史 ○九月十日小石川氷川明神祭礼者子

町より出づ練物せし後

○十月風邪流行

○十月廿六日金雕工濱野政隆終

運以下級不あり

○十月十二日官儒青木崑陽先生卒

七十二才号草廬孫文苑云
漢唐草堂他日此板

程のことあり
甘藷先生といふ同系流承もの
後の山ふりありの碑文をよむせり

一面甘藷先生墓とあり右の方ふりあはは流

享保二十年青木敦書蒙命種甘藷因人呼予曰甘藷先生甘

藷流傳使天下無餓人是予願也今作壽塚畫石曰甘藷先生墓

左の方ふり

君諱敦書字厚甫源姓青木氏号昆陽元禄十一年戊寅五月十

二日生明和六年己丑十月十二日終寿七十二葬于下目黒村

別野南君為橋堂葬地于此故也

○十月廿六日金雕工濱野政隆終

七十才
称太郎多弟

○十月晦日加茂真淵翁江戸終

七十才
少林院不葬

武江年表卷之五終

210
5

武江年表

210
6

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 7